

ご挨拶



関西文理総合学園理事長

若林 浩文

長浜バイオ大学開学10周年記念シンポジウム「バイオイノベーションによる日本の成長戦略ー長浜バイオ大学が果たすべき役割ー」を本日開催できますことに心から感謝申し上げます。

「日本でただ一つのバイオ系単科大学」として、平成15年4月にバイオ産業を始めとした経済界や長浜市、滋賀県など湖北の期待を受けて開学した本学は、平成21年アニマルバイオサイエンス学科とコンピュータバイオサイエンス学科の開設により、「バイオの総合大学」として発展してまいりました。

本学は、最先端科学技術であるバイオテクノロジーの分野において、日本をリードする大学であり、地域における学術研究の中心として、また、本学を核とした「産・学・官・民」の連携拠点として隣接する長浜サイエンスパークの企業の取組も着実に実を結び始めております。

本学は、開学以来、優秀な教員を迎え入れ、大学ランキング(朝日新聞社出版：平成24年度版)の新設大学(平成15年～平成24年設立)では、文部科学省科学研究費教員1人当たり獲得額第1位、外部資金獲得額第2位でありそれを証明しています。加えて、科学の総合雑誌として世界で最も権威のある「ネイチャー」への掲載論文(平成21年度)全国の大学で第9位、1論文あたりの被引用数第3位と教員の論文の質の高さを誇っています。

平成25年6月14日、日本経済再生に向けた「3本の矢」の3本目の矢である、成長戦略、「日本再興戦略ーJAPAN is BACKー」が閣議決定され、そのプランの一つとして「科学技術イノベーションの推進」が謳われており、それは、本学が開学した時期の成長戦略「科学技術創造立国」として復活させることであると言われています。

本日のシンポジウムは、あらためて科学技術イノベーションについて考え、科学技術創造立国復活に向けて、奈良先端科学技術大学院大学前学長・磯貝彰様、田辺三菱製薬株式会社代表取締役社長・土屋 裕弘様、日経BP社特命編集委員・宮田満様の基調講演、長浜市長・藤井勇治様を加えてのパネル討論を通して、日本の成長戦略に必要なバイオイノベーションにおける産学連携、地域振興等に本学が果たすべき役割を示唆していただけることと思います。

本日のシンポジウムが、本学の研究活動の新たな出発点となることを期待してご挨拶といたします。